

れました。それから毎月26日にはかぐら面をつけ、かぐらづとめと12下りのてをどりがつとめられるようになり、毎日おつとめ後にはお手ふりの練習もするようになりました。さらにおやさまは、「いき」にたもの「てをどり」「かんろだいてをどり」のさづけの理を渡されました。ちなみにてをどりのさづけとは今、我々が頂いているおさづけになります。

続いて明治8年におやさまは、「明日は26日やから、屋敷の内を綺麗に掃除しておくように」と言われ、そして翌日に、おやさまをはじめ、数人の人々が足を止めたところが人間宿し込みの場所であると教えられ、ごぼを定められました。その後「あしきはらひたすけたまへ いちれつすますかんろだい」の歌と手振りを教えられ、この明治8年におつとめの歌と手振りが一通り揃ったのです。それからびやや、はえでなどの「十一通りのつとめ」も教えられたのであります。明治10年からは、女鳴物を教えられ、明治13年からは初めて女鳴物を

入れおつとめをするようになりました。

明治15年には、奈良警察署長と警官によって2段あった、かんろ台の石を没収されますが、このことと立て合つて、おつとめの地歌のうち「いちれつすます」は「いちれつすまして」となり「あしきはらひ」は「あしきはらうて」と現在の状態に改まったのです。

慶応2年から明治15年までの17年間の長い時間をかけ人々につとめを教え、おふでさきをしるし、つとめとさづけの理を明らかにし人々の心を仕込んでいかれました。おやさまのひながたの中盤から後半はまさにおつとめをお教え下さった道であります。

こうして長い年月をかけ明治15年にやっと、おやさまが念願をされておられたおつとめを中心にしたたすけ一条の道の全容が整えられました。このおつとめを教え始められた頃というと、明治時代はじめの頃で当時の政府は国造りの上から神道を国の宗教にしたため、天理教は邪教となりました。徹底的に弾圧されるようになります。そしてついにおやさ

まは、十数度にわたり監獄へ拘束され御苦労することになるわけですが、拘束されればされるほど「ふしから芽が出る」と仰せられいそいそと御苦労をされにいかれます。ちなみに教典や教祖伝では御苦労という言葉が使われておりますが、この御苦労という言葉は、おやさまが苦労と思つたのではなく、我々人間の目から見ると、おやさまは警察に拘引、留置されたことはあまりにも厳しい道の為、大変御苦労下されたところからこう呼んでいるのであります。しかし御苦労の回数が増えるたびに、お言葉通り、お道は一層広がり、信者は増える一方でありました。おやさまは反対するものもすべて、

自分の子供であるとお言葉通り、弾圧する警察官に対しても、みんな可愛い子供であるとの気持ちから、どんなことでもさらさら気にもせず、ひたすら陽気暮らしの世界にしたいという一点のみの為に、いそいそこの道を通られました。

この警察の取り締まりが更に厳しくなるなか、明治11年

には、秀司様を講元とする真明講が結ばれるのです。その後、国々のあちこちで講が結成されていき、そして講を中心におつとめ、おたすけを展開し不思議な御守護があいつぎ瞬く間に全国に広がり、この講が母体となり教会が設立されるようになります。この広がりに政府は、危機感を感じ更に警察の取り締まりが厳しくなり、ついにはお屋敷でおつとめが全くできなくなつてしまいます。しかしおやさまは終始おつとめをつとめることを急ぎ込まれました。そしてある時、おやさまがお風呂場でふとよるめかれ、まわりの人たちがこれはどういう理でしょうかと聞くと「これは世界の動くしや」と仰せになり、より一層おやさまがおつとめをするように急ぎ込まれ、皆は談じ合いに談じ合いを重ねるさなか、「さあ今と言う、今というたら今、抜き差しならぬで。承知か。」と親神様がおやさまの身上に知らせつとめを実行するよう

にせまり、「心定めの人衆定め」と仰せられ、何も無い時に真実の心は定まるもので

はない。おやさまが警察に引つ張られるかもしれない、こういう時こそ人の心は定まるとめる者の精神を神一条に定めさせるように導かれました。そして明治20年1月26日、おやさまは身を隠されるわけですが、身をお隠しになる時の、最後のおつとめは形の上からは決して十分ではありませんでしたが、おやさまは満足でありました。それはつとめる人々の心の真実をお受け取り下さつたということができると悟らせてもらうことができ

ます。この時、親神様の約束通りあれだけ厳しかった、警察の取り締まりが不思議なことに全くありませんでした。このおつとめが終わるころ、皆の願いに反しておやさまは現身を隠され、当時そこに居合わせた人々はこの世の終わりのような思いになりましたが、「今からたすけするのやで」との本席様からのおさしづを聞き、人々は我に返り、おやさまが現身があるころにはやれなかつた、おさづけの理をお渡し下されるようになります。先人の先生方は、おたす